

聖路加看護学会

ニュースレター

第18回聖路加看護学会学術大会開催にあたって 第18回聖路加看護学会学術集會ご案内 第17回聖路加看護学会学術大会報告
2013年度聖路加看護学会看護実践科学助成基金研究助成採択者 平成24年度学術交流会報告
第17回聖路加看護学会総会の焦点 お知らせ 理事長挨拶 編集後記

●第18回聖路加看護学会学術大会開催にあたって

第18回学術大会 大会長 秋元 典子 (岡山大学大学院保健学研究科)

「患者と家族の『生ききる』を支える」。これは第18回聖路加看護学会学術大会のメインテーマです。

人々が何らかの健康障害を抱えた時、治療に伴う身体の状態・機能の変化、不快な身体症状、苦悩、死の意識の顕在化などが引き起こされ、それまでの生活に何らかの変化が生じてきます。人々がその状況に折り合いをつけ、養生しながら最新のその時まで途中投げせず、自分の人生を「生ききる」ことを支援するのは、看護独自の働きであり、責任であり、看護のアイデンティティであると考えます。なぜなら、「療養上の世話」と「診療の補助」の2つを業とする看護師には、これら2つを決して二分することなく融合させたケアとして患者と家族に提供することが求められているからです。そのため看護師は、医師が得意とする要素還元的アプローチとは対照的に、人を全体的存在 (as a whole) として捉える視点に立ち、からだと生活の両方がわかる医療職として、患者や家族のQOLが向上するよう、その人に提供すべきケアを熟考し、知恵を絞って実践し続けていると考えます。

このような考え方に立脚し、患者と家族の『生ききる』を支える看護のありようについて実践的知見と研究的知見双方から探求したいと考え、今回の学術大会を企画しました。

特別講演は、エンド・オブ・ライフケアにおける看護と題し、がん看護専門看護師である田村恵子氏に語っていただきます。シンポジウムでは、がん看護学研究者、急性・重症患者看護専門看護師、在宅難病患者ケアの専門家というさまざまな立場の方から患者と家族の「生ききる」を支える看護の実際を提言していただき、本質論を深めていきたいと考えております。また、ランチョンセミナーでは、「生ききる」を支えることに不可欠な看護師の職業的アイデンティティ形成について講師の提言を共有したいと考えております。

参加者の皆様が「看護とは何か」を改めて自らに問いかけ、それへの答えを真摯に探究できる1日となりますようお願いいたします。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

●第18回聖路加看護学会学術集會ご案内

会期：2013年9月28日(土)
会場：聖路加看護大学本館(東京都中央区明石町10-1)
メインテーマ：患者と家族の『生ききる』を支える

〈ランチョンセミナー〉
看護師の職業的アイデンティティの形成過程
グレッグ美鈴(神戸市看護大学)

◆プログラム
〈大会長講演〉
看護の約束 一命を守り、暮らしを支えるー 秋元 典子

〈一般演題 示説発表〉
演題申し込み方法については、学術大会HP (<http://square.umin.ac.jp/slnr18>) をご覧ください。
演題締切：2013年5月31日

〈特別講演〉
エンド・オブ・ライフケアにおける看護
田村 恵子(淀川キリスト教病院看護部主任課長・がん看護 CNS)

◆参加費 *事前申込は2013年9月6日(金)まで受け付けます。
学会員 ￥5,000(当日参加 ￥6,000)
非学会員 ￥6,000(当日参加 ￥7,000)
学生・大学院生 ￥3,000(当日参加 ￥3,000)

〈シンポジウム〉
『生ききる』を支える ～さまざまな看護実践の場からの提言～
座長：井上 智子(東京医科歯科大学大学院)
吉田 千文(千葉県立保健医療大学)
急性・重症患者と家族の「生ききる」を支える
北村 愛子(大阪府立泉州救命救急センター、CNS)
声を喪失した頭頸部がん患者と家族の「生ききる」を支える
山内 栄子(大阪医科大学看護学部)
在宅で生活する患者と家族の「生ききる」を支える
長沢つよ(東京都神経難病医療ネットワーク事業 難病医療専門員)

◆振込先
口座番号 01340-5-50582
加入者名 第18回聖路加看護学会学術大会事務局

◆領収書
郵便払込票をもって領収書にかえさせていただきます。

第17回 聖路加看護学会学術大会報告

●第17回聖路加看護学会学術集会を終えて

大会長 聖路加看護大学 山田 雅子

猛暑の季節が去り、秋の空気を感じ始めた日に第17回聖路加看護学会学術大会を開催いたしました。大勢の皆さまのお力添えを頂戴し、無事に大会を終えることができましたことに心から感謝申し上げます。

今の日本は世界中がまだ経験したことのない高齢社会を迎えており、従来型の病院提供型医療では到底太刀打ちできないほどの医療ニーズが押し寄せるとされています。そう考えると看護は、医療機関内で患者を待っている体制ではなく、必要としている人の生活の場に看護を届けるということにパラダイムシフトしていく必要性にたどり着きます。すぐれた看護技術はあらゆる場で展開されるべきですし、病と共に生きていく命、あるいは近い将来死を迎える命に対して、あるべき医療の姿に思いをはせれば、必ずといってよいほど在宅などにおける看護の重要性に皆が気づくのだと思います。

今回のメインテーマに「在宅看護」というキーワードを使わなかった理由は、まだまだ在宅看護とは関係がない立場で仕事をし

ていると認識している看護師が多いため、参加者が限られるのではないかと言うことを危惧したからです。在宅看護は訪問看護だけのための知識体系ではありません。あらゆる場で働く看護師が備えておくべきものであると考えています。

今回は、多様な場で看護実践をされている皆様にお集まりいただきたかったため「移行支援」とか「退院調整」という言葉を使いましたが、そういう工夫をせずとも、当たり前のように在宅療養者のための看護をあらゆる場面で討議できるように学会が成長していけばよいと思いました。病気をもちながら生活する人々のための看護をあらゆる側面から考えることは、今の時代の最先端看護の分野であると確信しているからです。

今回の学術大会での学びを、この厳しい高齢社会を乗り切るためのパワーとして活用していただきたいと思います。ご参加いただき本当にありがとうございました。



●第17回聖路加看護学会学術集会事務局からの報告

事務局 聖路加看護大学 田代 真理

第17回聖路加看護学会学術大会企画委員会は2012年1月に発足しました。「連携の先に見えるもの一つなく看護を科学する」というテーマのもと、10名の企画委員が中心となって広報、会場設定、プログラム・講演集作成、庶務、会計といった役割を担いながら準備を進めてきました。示説発表には看護教育、看護技術、PCC、地域連携、緩和ケア・ターミナルケア、周産期看護・助産といった幅広い分野より31演題の登録があり、示説会場は多くの方で賑わい、熱気に包まれていました。また、学会開催にあたっては、出展企業15社、広告企業9社から多大なご協力を頂戴しました。ランチョンセミナーの会場1では保田淳子氏よりノー



リフトポリシーに沿った看護ケアが紹介され、リフト関係の出展企業の協力を得て「持ち上げない、痛くない、こわくない看護の技」の実演が行われました。会場2では、

宇都宮宏子氏より退院支援困難事例の公開コンサルテーションがあり、「つなぐ看護」についてお弁当を食べながら皆で学びを深めました。お陰さまで9月22日(土)の大会当日は天気にも恵まれ、214名(事前登録127名、当日参加87名)の参加者を迎えて、盛況のうちに学会を終えることができました。学会に関するアンケートは74名の参加者から回答がありました。参加者の内訳は病院・診療所(49%)、教育機関(13%)、訪問看護ステーション(26%)など多岐に渡っており、午後からの市民公開シンポジウムでは、施設内の看護にとどまらず、地域の様々な人との意見交換ができ、86%が「良かった・大変良かった」と回答していました。また、大会長講演「超高齢社会に立ち向かう看護が持つべき技—退院支援から考える Transition Support—」や森田達也氏の特別講演「緩和ケアをつなぐ革新的実践と研究について—大型研究プロジェクト(OPTIM)の経験から」についても70%以上の者が「良かった・大変良かった」と回答しており、講演、シンポジウムともに好評でした。企画委員、実行委員、ボランティア、学会参加者、企業の方など、第17回聖路加看護学会学術大会にご協力下さった全ての皆様に心より感謝申し上げます。

参加者からのメッセージ

・シンポジウムがすごくよかったです。活発な意見、情報交換ができたと思います。新涼 (T. M. 一般参加者)

・ポスターセッションのみのギュッと凝縮された学術集会もいいものだと思います。(M. N. 一般参加者)

・本セッションは呼吸ケアに関する看護技術の有用性、看護ケアが行為者自身である看護師にもたらす効果、そして訪問看護師や退院調整看護師の用いる相談・連携・協働技術の可視化など、看護技術に様々な角度からアプローチし解明しようとした意欲的な研究が発表されました。5演題のうち2つは今春卒業し実践を始めた研究者で、堂々としたプレゼンテーションに若々しい力を感じることができました。また、のこりの3題は、自身やエキスパートの連携・協働の実践を素材としてそこから科学的な知や課題を導き出すとする研究でした。参加者の多くは在宅や医療施設での実践家の方のようで、熱心に発表に耳を傾けメモをとり、発表後にもポスターの前で質問をしたり情報交換をしたりしておられる様子から、研究から刺激をうけ、実践を向上させていこうという思いが伝わってきました。

(吉田千文 ポスターセッション座長)

・People-centered Care をテーマとしたセッションでした。

子どもと高齢者を対象者とした多世代交流プログラム、幼稚園の年長児、認知症家族を介護している家族、市民向け公開講座の参加者、健康相談体験のある臨床看護師、など、様々な People が、主体的に毎日生活し活動できることに焦点をあてたケアの取り組みが発表されました。

多くの参加者と熱のこもった発表に、People-centered Care が深まっていることを感じられたセッションでした。

(佐居由美 ポスターセッション座長)

・在宅療養を支えるための、主に訪問看護を中心とした連携に関する演題群でした。

療養通所介護事業所に関する発表では、他の介護サービスでは、なぜ利用者のニーズが満たせないか、という観点から質的に探究を行い、フロアからは事業所運営の視点なども絡めた活発な意見交換がありました。

他にも、独居高齢者の医療処置決定における倫理的課題、精神科ケアマネジメントチームにおける CNS の役割と機能、英国地域誠心医療の報告、独居高齢者を支える多職種連携の報告など、多様な立場や切り口での発表がなされ、現時点での在宅分野における「連携」の実態について知り、課題を考えるよい機会になったと思います。(松浦志野 ポスターセッション座長)

・緩和ケア、ターミナルケアに関する様々な視点からの研究の結果をうかがうことができた。実践を変える看護の貢献の拡大につながっていくことが期待された。

(梅田恵 ポスターセッション座長)



熱気あふれるポスターセッション会場

合わせて31演題の発表がありました。



企業展示も含め、新しい情報にふれられる場。



●平成24年度学術交流会報告

聖路加看護大学 松谷美和子

本年度の学術交流会は、講師に厚生労働省医政局看護課長岩澤和子氏をお招きし、9月22日(土)の本学会学術大会終了後、聖路加看護大学アリス・C・セントジョンメモリアルホールにて開催、約90名の方が参加しました。講演のテーマは「チーム医療推進のための看護業務の検討状況について：特定行為及び看護師の能力認証に係る試案(イメージ)」でした。高齢社会と国民の医療に対するニーズの増加を背景に、看護師は今あらゆる医療現場で診療・治療に関連する業務から患者の療養生活の支援に至るまで幅広い業務を担っています。厚生労働省で平成20年から検討が進められているチーム医療の推進においても看護師の「チーム医療のキーパーソン」としての役割に対する期待が大きくなっています。医行為分類(案)が出されていますが、まだ検討途中であり、今後、特定の医行為を診療の補助として明確化し、厚生労働大臣が指定する研修機関で研修を受けた修了者が包括的指示を受けてそれらを実施できる方向で議論されます。また、具体的な医行為分類(案)及び教育内容等基準(案)については、関係学会等から幅広く意見を募集することになっており、適宜チーム医療推進会議において報告されることが説明されました。本学会においても看護実践の向上と看護学の発展からも、本件について注目していきたいと思っております。

■2013年度聖路加看護学会看護実践科学助成基金研究助成採択者

学術交流委員会

2013年度の研究助成採択者は2名でした(助成金総額20万円)。

瀬戸山陽子：インターネット上の「エビデンス情報」に加えて、「ナラティブ情報」を利用するための患者・市民向けガイドの開発

糸井 和佳：地域における高齢者と子どもの世代間交流を用いた看護実践評価法の確立

看護実践の向上と看護学の発展に寄与することを期待します。

研究助成情報については、適宜、ホームページにアップします。

■第17回聖路加看護学会総会の焦点

聖路加看護学会 森 明子、佐居由美（庶務担当）

第17回聖路加看護学会総会は、2012年9月22日（土）に出席者35名、委任状提出者291名により開会されました。会則第20条より、議長は学術大会大会長が務めることになっていますが、大会長の山田雅子氏は理事長でもあるため、副理事長の井部俊子氏が議長を代行しました。

本年の総会では、会期変更に伴い、2012年度の活動報告はすべて中間報告とされました。本総会の焦点は、「会期変更に伴う役員および評議員の任期延長に関する申し合わせ事項」を策定したことのご報告と、会計年度変更に伴う「2012年度補正予算」をご審議いただくことでした。これは学会誌編集委員会が学会誌16巻3号を発行するための予算額の変更です。発刊間隔が空いてしまうことは会員の投稿数が増えている現状にそぐわず、会員サービス上、望ましくないとの委員会の意見を受けて理事会がこれまで通りの発刊間隔を維持すること、そのための予算を予備費から充てるという判断を下したものです。

その後、2013年度の事業計画案および予算案について説明がなされ、総会の議題はすべて承認されました。事業計画にとくに大きな方向転換はありませんが、会計より予算項目変更についての報告がありました。現在、一般社団法人化に向け、公益法人会計基準に基づいた会計管理を行っており、2013年度予算の項目はこれまでとは変更になっています。大きな特徴は、学術大会予算が一般会計に組み込まれたことです。また、年会費納入率が65%であることがあわせて報告され、会費納入への協力依頼がされました。

第19回学術大会長には、森田夏実氏（慶応義塾大学看護医療学部）が推薦され承認されています。

理事長挨拶

聖路加看護大学 山田 雅子

理事長としてニュースレターに寄稿するのは2回目になります。1回目は、はじめて理事長を仰せつかったときでした。それから4年目を向かえ、今年は学術大会長も仰せつかり、聖路加看護学会の在り方について、振り返ることが多かったと思います。

そもそも本学会の使命は、高度化された看護教育から生み出されるすぐれた看護実践に関する知識を発表し議論するための身近な情報交換の場であることだと考えています。また専門分野を絞っていないことから、さまざまな分野の看護実践を知り、それを自分の興味の中に取り込み活用する、あるいは応用するためのきっかけ作りにもなってほしいと思います。聖路加看護大学の同窓生に限らず、看護について忌憚なく意見交換できる最も垣根の低い学会であることを願っています。

2013年度からは、4月始まりの会計年度にすべく調整中です。2012年10月から2013年3月までの半年間は、会費を追加徴収することなく運営してまいります。つまり、1年分の会費収入で1年半の運営をするということです。学会誌の掲載など会員の皆様にはできるだけ迷惑をかけないように進めてまいります。経費削減は余儀なくされております。毎年の会費納入につきましては、例年にも増してお忘れになりませんよう、何卒よろしく御協力くださいますよう、お願い申し上げます。

お知らせ

★学術交流委員会

2012年9月に行われた第17回学術大会において、2011年度の「聖路加看護学会看護実践科学助成基金」研究助成採択者5名が研究成果を発表しました。2012年度の採択者は3名でした（助成金総額20万円）。2013年度も助成金の総額は20万円で、応募は1月末日に締め切られ、選考審査委員によって審査を行い、2名の方が採択されました。（採択者と研究課題は本紙p.3に掲載。）今後も、看護実践の向上と看護学の発展に寄与することを期待します。

尚、2013年度の学術交流会については、後日ご案内いたします。

（担当理事：松谷美和子・佐藤エキ子）

★庶務

勤務先（所属）、住所、メールアドレスなどの変更がありましたら、学会事務局までご連絡ください。2012年度の会費納入がまだお済みでない方、2013年度の会費納入につきましても、学会活動に支障をきたさないようにするため、速やかな納入にご協力をお願いいたします。また、周囲の皆さまへの本学会入会への勧誘をお願いいたします。

連絡先：E-mail address：slnr@slcn.ac.jp、

Fax（大学代表）03-5565-1626、郵送可。

（2012～2015年度担当理事：森 明子、佐居由美）

★学会誌編集委員会

1. 会期変更に伴う刊行計画：2013年度から、本学会誌は1月末、7月末の年2号を定期刊行します。2012年度に限り、会期の変更に伴い、1月末に3号が発刊されました。また、学術大会の講演集は通巻から外れることになり、表紙のデザインは各学術大会がオリジナルに決めることになりました。17巻2号（2014年1月末発刊）掲載予定分の投稿論文の提出期限は、5月末日です。
2. 編集・発行委託業者の変更について：2013年2月1日以降に投稿される論文については、新規委託業者（㈱ワールドプランニング社）が編集業務を行うことになりました。論文を投稿される方は、送付先をホームページでご確認ください。

編集後記

第17回聖路加看護学会学術集は「つなぐ看護」がテーマでしたが、本学会では看護における重要なテーマが脈々とつながっていると感じました。（飯岡）
新年度が始まりました。本号は、前回学術大会を振り返り、次回に向けて期待が高まるような内容になればと準備しました。（松本）

●発行：2013年4月22日 ●編集：小山眞理子 飯岡由紀子 松本直子 ●印刷：㈱イーフォー
●連絡先：聖路加看護学会事務局 〒104-0044 東京都中央区明石町10-1 聖路加看護大学内
電話 03-3543-6391（代表） FAX 03-5565-1626（代表） HPアドレス <http://slnr.umin.jp/>